

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
D401	卒業研究 / EXゼミⅢ	4年	演習	4	吉良貴之
授業概要 EX ゼミⅡに引き続き、「社会」にかかわる問題について、自分なりの問題関心からテーマを設定し、最終的な卒業研究等を完成させる。具体的には、(1) 効果的なテーマ設定のあり方、(2) それに応じた情報収集の方法、(3) 中間的な成果を発表するためのプレゼンテーション技法、(4) 他のゼミ参加者との議論方法、(5) レポートにふさわしい文章スキル、などを学ぶ。 担当教員は「法学」「哲学」を専門としているが、卒業研究のテーマ設定はとくにそれに限らず、国際問題、社会問題、あるいは身近なまちづくりの問題など、自由に選んでもらってかまわない。授業では宇都宮地裁での裁判傍聴や、各種実務家へのインタビューを通じて制度運用の「現場」を体験したり、関連する映像作品を視聴したりするなど、さまざまな角度から有益な情報が得られるような工夫をしたい。なお、受講者の興味関心を最優先するため、授業計画は柔軟に変更する。					
到達目標(学習の成果) (1) 社会問題その他について、自分なりの関心から具体的なテーマ設定を行えるようになること。(DP3) (2) 設定したテーマに応じ、資料収集、聞き取り調査など、適切な情報収集のやり方を身につけること。(DP2) (3) 他のゼミ参加者との議論を通じ、一定のテーマのもとでの「対話」のやり方を身につけること。(DP1) (4) 自分の考えを他者に伝えるにあたって効果的なプレゼンテーションを行えるようになること(学園祭、まちづくり提案など)。 (5) 以上を踏まえうえて、卒業研究を完成させること。					
授業計画					
回	表題	学修内容			
1	ガイダンス	ゼミの趣旨や進め方を一通り理解したのち、参加者の自己紹介を通じ、各自がどのような問題関心を抱いているかを(最初はおおまかに)理解する。			
2	プレゼンテーション実演 (1)	参加者の問題関心に応じて、教員がテーマを選んでプレゼンテーションを行う。それを通じて、プレゼンテーションの基本的なイメージをつかむ。			
3	プレゼンテーション実演 (2)	(1) に続いて、また異なるテーマで教員がプレゼンテーションを行う。問題の切り口のさまざまなあり方を理解する。			
4	卒業研究テーマ設定 (1)	卒業研究の作成に向けて、適切なテーマ設定の行い方の基本を理解する。			
5	卒業研究テーマ設定 (2)	引き続き、テーマ設定について考える。さまざまな事例を通じ、関心を引かれるテーマにはどのようなものがあるかを考える。			
6	卒業研究テーマ設定 (3)	引き続き、テーマ設定について考える。この時点までで、各自の卒業研究のおおまかなテーマ設定を行い、具体的な方法について考えていく。			
7	テーマ設定の中間発表	期末レポートに向けて、その時点でのテーマ設定を発表してもらい、さらに深めていくための具体的な方向を、参加者相互の対話を通じて考えていく。			
8	情報の集め方 (1)	あるテーマを調べていくうえで、どのような資料が必要かを考える。この回は書籍の集め方を中心に扱い、図書館や書店の利用方法について理解を深める。			
9	情報の集め方 (2)	インターネットを用いた資料収集について考える。膨大な情報のなかで「使える」情報とそうでないものを見分けるスキルを身につける。			
10	情報の集め方 (3)	インタビューやフィールドワークをはじめとする、聞き取り調査の具体的なあり方について理解を深める。			
11	現地調査 (1)	社会問題が扱われている「現場」を実際に目にするすることで、テーマ設定のあり方をより現実的なものとする手がかりを得る。宇都宮地裁での裁判傍聴などを予定。			
12	調査分析 (1)	前回の現地調査を受け、それぞれに考えたことを簡単に話してもらい、参加者同士で議論を深める。異なる捉え方に出会うとともに、対話のスキルを身につける。			
13	中間発表 (1)	これまでの準備をふまえ、自分なりのテーマ設定に基づいて調べた結果を、スライドやレジュメを作ったうえで各 20 分程度で簡単にプレゼンし、議論する。			
14	中間発表 (2)	前回到引き続き、参加者によるプレゼンをもとに議論する。夏学期末にはそれをもとにした中間レポートを作成してもらうため、その方法も学ぶ。			
15	中間発表 (3)	前回到引き続き、参加者によるプレゼンをもとに議論する。			

16	中間発表の講評 (1)	夏学期末の発表をもとに、中間レポートもしくは資料を作成・提出してもらい、それを卒業研究につなげるためのあり方をともに考える。
17	中間発表の講評 (2)	提出された中間レポートを参加者全員で読み、相互にコメントする。単なる批判だけではなく、建設的な提案・議論のためのスキルを身につける。
18	文章の書き方 (1)	卒業研究作成に向けて、形式をふまえた文章の書き方について、事例を通じて考えていく。
19	文章の書き方 (2)	引き続き、文章の書き方について、情報や主張を伝えるために効果的な構成のあり方はどのようなものか、という点を意識して考えを深める。
20	聞き取り調査の方法	文献やインターネットによる情報収集だけでなく、「現場」の人々の声を聞くにあたっての方法やマナーなどを理解する。
21	聞き取り調査の実践	参加者の関心に応じ、「現場」を知る方々へのインタビューを行う。具体的には、「まちづくり」にかかわる政治家や行政担当者、市民の側で運動されている方など。
22	聞き取り調査の分析	前回の聞き取り調査の結果を受けて、各自で考えをふくらませたことや反省点などについて意見交換を行い、自分のテーマに関連させる形で考えを深める。
23	中間発表 (4)	これまで理解してきたことをふまえ、さらに発展した中間発表を行い、参加者同士で議論する。
24	中間発表 (5)	引き続き、この段階での中間発表を行い、議論を深める。
25	中間発表 (6)	引き続き、この段階での中間発表を行い、議論を深める。
26	卒業研究の講評 (1)	中間発表をもとにして、さらに発展した文章を提出してもらい、参加者全員で検討する。この段階で半分～7割程度の完成度を目指す。
27	卒業研究の講評 (2)	引き続き、卒業研究完成に向けた議論を深める。自分のテーマを深めるだけでなく、他の参加者の議論がどうすればよりよいものになるかをともに考えることを重視する。
28	卒業研究の講評 (3)	引き続き、卒業研究完成に向けた議論を深める。
29	卒業研究完成に向けて (1)	これまでの成果を踏まえ、最終的な卒業研究の完成のために何が必要かを、それぞれの進み具合に応じて具体的に意見交換する。
30	卒業研究完成に向けて (2)	完成した卒業研究をそれぞれ発表してもらい、最終的なチェックを行う。

準備学修(授業外の自己学修)

自分なりのテーマ設定に向けて、日々、読書やニュースを通じて情報収集を行うこと。プレゼン準備やレポート作成には時間がかかるので、前日に一気に準備するのではなく、毎日少しずつ進め、疑問点があれば教員に相談すること。

成績評価の方法・基準(%表記)

各自のテーマ設定に基づく中間発表(前期後期で各2～3回、20%)、中間レポート(前期後期で各1回、20%)、卒業研究(後期修了後に提出、40%)、議論への参加(20%)。自分なりのテーマ設定ができているかどうか、授業で考えた方法・構成・形式などが見についているかどうか、数回の発表を通じて内容の改善がみられたかどうか、自分のテーマだけでなく他の参加者のテーマにも配慮して十分な意見交換ができたか、などについて総合的に評価する。

観点	S	A	B	C
法律学ほかの勉強をふまえ、社会問題に関わる独自の課題設定ができること。	法的な考え方をもとに、多様な課題へと応用ができる。	法的な考え方をもとに、適切な課題設定を理解できる。	法的な考え方をもとに、課題と解決方法の関係が理解できる。	法的な考え方をもとにした課題設定の最低限の理解ができる。
他のゼミ参加者との生産的なディスカッションができること。	法的な考え方をもとに、多様な話題を展開できる。	法的な考え方をもとに、相手の思考に合わせた対話ができる。	法的な考え方をもとに、議論すべき論点を理解できる。	法的な考え方をもとに、最低限の議論作法を身につけている。
最終的な成果物作成、およびそれに向けたプレゼンテーションができること。	学問的作法を十分に身につけた発表、論文作成ができる。	明確な課題設定のもと、「伝える」ための方法を身につけている。	取り組むべき課題を明確にし、必要な方法への理解がある。	課題設定、プレゼンテーション技法について最低限の理解がある。

教科書

指定しない。

参考書等

参加者の問題関心に応じて、関連する参考書や資料を指示する。プレゼン方法やレポート作成については、予習復習用の資料を配布する。

履修上の注意・学修支援

参加人数や、参加者の問題関心に応じて、授業計画は柔軟に変更するものとする。テーマ設定やプレゼン方法、レポート作成については、オフィスアワーなどを活用し、教員とできるだけ密に相談することが望ましい。また、教員ホームページには各種資料をアップするので予習復習に役立ててほしい。(http://jj57010.web.fc2.com)